

介護事業者の事故対応

ベッドから転落する利用者、なぜ降りようとするのか？

－夜間の移動欲求の大半は排せつ欲求－

■ 離床センサーでは間に合わない

ある特養の利用者が夜間にベッドから転落しました。夜勤職員が夜12時の巡回でベッドから転落しているAさんを発見しました。幸いケガはありませんでしたが、Aさんは要介護5でほとんど自発動作のない利用者だったので、職員は大変ビックリしました。この職員はこの事故の報告書の再発防止策の欄に「見回りを頻回にする」と記載しましたが、リーダーは「どれくらい頻回に見回れば、ベッドから落ちる寸前に居室に行けるの？」と言い、離床センサーを使用することになりました。

しかし、離床センサーを設置したものの、その後2週間近く全く反応がありませんでした。元々自発動作がほとんどない利用者でしたから、ベッドから転落したのは偶然だったのだろうと考えられました。ところが、2週間を過ぎたころ、今度は昼間にナースコール(離床センサー)が鳴り、介護職員が駆けつけましたが、Hさんは既にベッドから転落していました。今回は勢い良く転落した様子で、Aさんは痛みを訴えていました。受診すると大たい骨を骨折する大きな事故となってしまいました。ユニットではカンファレンスを開き、自発動作のほとんどなかったAさんが、なぜベッドから転落するようになったのか話し合いました。

認知症の進行により低下した運動能力が回復？

■ 運動能力が向上する理由

この不思議な事故の謎を解いて見ましょう。まず、自発動作の少ない利用者の動作が活発になる理由は、認知症の急速な進行です。長期の療養生活などで運動能力が低下する理由の多くは、身体機能の喪失が原因ではなく、寝たきりなどで運動能力を使わないことから起こる「廃用性の運動能力低下」です。



これらの利用者の認知症が急速に進行すると、なぜか運動能力が活発になることがあります。認知症の進行によって運動能力が向上することは良く知られていますが、低下した運動能力が回復することもあるのです。

■ ベッドを降りようとする原因はオムツ

さて、運動能力が少し回復したAさんがベッド上で動いたためベッドから転落したことはわかりましたが、なぜベッド上で動いたのでしょうか？実はベッドからの転落には2種類のケースがあることが判っています。1つ目は「ベッドから降りる意思がないのに、ベッド上で多動になって(動き回って)間違えて落ちてしまう」というケース。2番目は「ベッドから降りようとして誤って落ちてしまう」というケースです。

この2つのケースのどちらが多いかというと、2番目のケースです。つまり、ベッドから降りようとして転落する利用者が圧倒的に多いのです。

つまり、ベッドから降りようとする意思があり、理由があることとなります。このベッドから降りようとする理由が最近になってようやく判ってきました。

ベッドから降りようとする理由はそのほとんどが「オムツ内の排便」です。どんなに認知症の重い利用者でも、オムツ内に便を貯めて気持ちの良い人は居ません。どうしてもトイレに行こうとしてベッドから降りるのです。終日オムツの利用者が多い施設はベッドからの転落が多い傾向にあります。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発 市場開発室
担当 堀江・窪田
TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店